令和８年度大磯町町民活動補助金事業採択結果

No	申請団体		申請事業名	事業計画	補助希望額（円）	大磯町補助金等評価委員会の評価			
	団体名	代表者				評価点（平均）	補助額	補助率	査定額（円）
1	トコトコ	白砂　有里子	障害の有無にかかわらず安心して暮らせる居場所づくり	【事業目的】 障害のある方が住み慣れた地域で安心して過ごせるために、居場所づくりや情報交換・交流・情報発信をしていく。 【事業計画】 ■令和8年度【2年目】 ・保護者向けの茶話会を各月で実施　ニーズを把握　・勉強会検討 ・情報紙を発行検討　年1回～3回を目指して作成検討 ・プールイベント2回出来たら3回実施、バスでプール施設へ外出(練習と実施) ・福祉事業所との関係づくり、行政との連携　・ヘルプマークグッズ作成検討 ・SNSなど活用、情報発信・もうひとつの家(仮称)のための情報収集、協力要請、計画作成 ■令和9年度【3年目】 ・茶話会(気持ち・情報共有)とテーマのある勉強会などを定期的に行う ・居場所の定期イベント継続　・啓蒙活動　情報誌など　・町外への外出活動検討 ・もうひとつの家(仮称)のための計画作成、実施に向けた動き　・グッズ作成の計画 ■令和10年度【4年目】 ・居場所の定期イベント継続　・大人の当事者も参加しやすい企画　・勉強会実施　外部講師など ・もうひとつの家(仮称)のための計画作成、実施に向けた動き　・他団体との協力	22,950	26.6	満額補助	－	22,950
2	ヤッホーシネマ	飯永 萌	ヤッホーシネマ	【事業目的】 本事業は、映画という親しみやすいエンターテインメントを入り口に、環境問題や少子化といった複雑な社会課題に対する心理的ハードルを下げ、町民一人ひとりの意識変容と自発的なアクションを促すことを目的とする。さらに、子どもや若者の居場所となっているヤッホーを拠点とすることで、さらに多様な世代が交わり、映画で得た気づきを共有し合うことで、実際の地域活動や次世代支援へと繋げる「循環型のコミュニティ」と進化することを目的とする。 【事業計画】 ■令和8年度【団体設立1年目：基盤づくりと試行】 本事業のスタートアップ期間として、子どもの居場所ヤッホーを拠点に月1回程度の上映会を定期的に開催。町民が社会課題を「自分事」として捉え、行動に移すための基盤を構築する。 ●拠点活用・環境整備： 上映機材を揃え、子どもの居場所「ヤッホー」をメイン会場に据え、5月より上映会を開始。アットホームな空間で、若者から高齢者までがリラックスして社会課題（環境・少子化等）に触れられる環境を整える。 ●運営体制の確立：多世代の有志による運営委員会を組織する。作品選定、著作権対応、周知・広報等の運営を確立させる。 ●参加者コミュニティの形成：チラシの町内公共施設や協力店舗での掲示に加え、SNSで上映作品の解説を行うなどして、参加前のハードルを下げながら、参加者コミュニティの輪を広げる。 ●外部団体・専門家との連携： 「No Youth No Japan」「かながわ脱炭素市民フォーラム」「防災をHAPPYに伝える防災士まこび」等の社会課題に取り組む団体や専門家とも連携し、映画を観て終わりではなく、知識を実践に変えるワークショップ等を映画上映と合わせて実施する。 ●持続可能な運営モデルの検証：適切な参加費を設定し、上映権料を賄う。 参加者を募集し、運営の自走化に向けた「サポーター制度（有料会員や協力金）」の設計を行う。 ■令和9年度【団体設立2年目：協働とアクションの創出】 ●映画上映の継続実施：月1回（年12回程度）の映画上映会を継続的に開催する ●連携の拡大：1年目のネットワークを活かし、映画上映に「実践体験」を掛け合わせた1日型イベントを定期開催する。 ■令和10年度【団体設立3年目：自律的な町民活動への発展】 ●映画上映とイベントの継続実施：月1回の映画上映会の継続開催、アクションに繋がるイベントの年4回程度の継続開催 ●大磯町とのイベント共同開催：これまでのノウハウを活かし、大磯の毎年のイベントである「大磯海辺の映画館」を共同開催し、参加者の輪をさらに広げながら、ヤッホーシネマの活動や成果を町全体へ波及させる ●地域活動のハブ化： 映画上映をきっかけに発足した有志グループ（例：脱炭素eco活動広げ隊、パーソナル防災の輪を広げる活動など）へのナレッジ共有や連携を強化し、ヤッホーシネマプロジェクトが「地域活動のハブ」としての役割を担う。 ●自立型収益モデルの確立： 寄付金や協賛金、参加費の運用モデルを安定させ、補助金に依存しすぎない、町民の手による持続可能なコミュニティ文化として定着させる。	100,000	25.4	減額補助	－	90,550
3	Lopo（Life of Photography Oiso）	小柴　尊昭	「地域の写真室」プロジェクト　−写真でつなぐ、大磯の記憶と人。	【事業目的】 写真文化活動拠点を大磯を拠点とする写真家たちと地域の方々のハブとして機能させ、写真による地域の暮らしの魅力を表現した作品づくりや発信、地域の人・活動への写真を通じた支援・交流、若者育成支援に取り組む。 【事業計画】 大磯の写真家・写真愛好家が集い活動し地域とつながる「地域の写真室」。地域活性化に寄与する以下の4本柱で活動。 ・OISO LIFE STORIESの継続（撮影・取材・制作・展示） ・大磯の写真家による講演会・ワークショップによるアマチュア作家の活躍・次世代育成（年間4回程度） ・大磯の写真家による作品制作の拠点として整備、街における施設での展示（年間1～2回程度） ・プロ・アマ問わず大磯をテーマにした「みんなでつくる大磯写真作品シリーズ」の立ち上げ・展示販売。	240,000	31.2	満額補助	－	240,000
4	みずべぐらしプロジェクト	長谷部　駿	みずべぐらしプロジェクト	【事業目的】 本事業は、大磯町において地域のつながりや自然とのふれあいが希薄になりつつある現状を受け、町内の水辺空間を活用した「みずべぐらし」の実践と普及を通じて、人と人、人と自然、人と地域がゆるやかにつながる場を育むことを目的とする。不動川河口をはじめとした身近な水辺を、イベントにとどまらず日常的に立ち寄れる「居場所」として活用することで、地域住民の交流促進や、多世代・多様な人々の参加を促すコミュニティの形成を目指す。また、地域外からの移住者や関心層にとっても、地域に親しむきっかけとなる場を創出する。 【事業計画】 ■令和8年度【団体設立3年目】 ・１回の質をあげ、より拡充されたイベントを継続的に開催 SUP体験会：月に2回開催（4月～10月） 週末みずべぐらし（Weekends SUP、水辺の集い（旧水辺で焚き火）、水辺クリーン、ご近所サウナ）：月にいずれか3回開催（通年）計36回開催 tamari：年に2回開催。地域の方々と展示などでコラボレーション予定 ・水辺の継続的な改修 ・本事業webサイトの拡張 ・大磯市/ブックマルシェ/うつわの日での出展 ■令和9年度【団体設立4年目】 ・１回の質をあげ、より拡充されたイベントを継続的に開催 SUP体験会：月に2回開催（4月～10月） 週末みずべぐらし（Weekends SUP、水辺の集い（旧水辺で焚き火）、水辺クリーン、ご近所サウナ）：月にいずれか3回開催（通年）計36回開催 tamari：年に2回開催。地域の方々と展示などでコラボレーション予定 ・水辺の拠点の継続的な改修 ・本事業webサイトの拡張 ・大磯市/ブックマルシェ/うつわの日での出展	212,500	27.0	満額補助	－	212,500
5	大磯小学校ウィンドオーケストラ	大島　健吾	大磯小学校ウィンドオーケストラ（吹奏楽団活動）	【事業目的】 かつて大磯小学校が教育の一環として行っていた吹奏楽団の活動を継続させて音楽を通じた子供たちの育成をはかる。 また、町内の文化活動の一旦として幅広い方々へ音楽を間近に触れてもらう。 【事業計画】 ■令和６年　【団体設立1年目】 運営母体が団員（大磯小学生生徒の参加者）の保護者に移管。新しい吹奏楽団として団則や活動内容を構成し、1年間思考錯誤をしながら活動。 ■令和７年　【団体設立２年目】 1年目に引き続き吹奏楽団として運営。指導者をボランティアにより行うことは困難なことが分かり、指導者費用を支払い1年間実行。小学校から譲り受けた楽器のいくつかは古くなり、買い替えが必要。 今後の運営継続のため、まずはベースとなる環境整備（楽器購入）を行いたい。	350,000	20.8	－	－	－
6	ぷちおおいそ実行委員会	横井 太一	ぷちおおいそ2026	【事業目的】 「ぷちおおいそ」は、子どもたちが主体となって運営する仮想タウンでの職業体験を通じて、勤労・納税・貨幣価値・需要と供給などの社会の仕組みを実体験で学ぶこと、および準備・運営を通じて世代間・地域内の新たなつながりを創出し地域力を高めることを目的とします。今後は、リモートワーク体験やSDGs学習を取り入れ、子どもたちのICTリテラシーと持続可能性への関心も育成します。 【事業計画】 ・対象：大磯町内の小学生（主に4～6年生）を中心に、協力する中高生・大学生・地域住民・企業が運営に参加 ・主要プログラム：子ども会議（事前学習・ブース準備）、職業体験（子どもリーダー：経営者体験、参加者：就労体験）、銀行・税務署・ハローワーク等の模擬行政機能、リモートワーク体験ブース（計画中）、SDGs関連ブース ・運営体制：実行委員会が企画・調整を行い、地域企業・学校・ボランティア等と連携して会場設営、当日運営、事後片付けを実施 ・成果指標：参加子ども数、ボランティア数、参加者アンケートでの満足度、地域協力団体数、次年度以降の運営協力者（育成した世代）の参加率　等	104,000	26.4	満額補助	－	104,000
7	湘南西部スポーツクラブ	安藤　岳彦	パラスポーツ普及・推進事業	【事業目的】 障がいの有無や性別・年齢に関わらず行えるパラスポーツ（主に車いすバスケットボール、ボッチャ）を習い事のように定期的に楽しめる場を、継続・発展させ、身近なスポーツにしていくこと。 【事業計画】 ●大磯町立国府小学校体育館、メタックス体育館はだのにてそれぞれ月1回の車いすバスケットボールスクール（ビギナー向け）、パラスポーツ体験会を開催。 ●11月22日（日）、3X3車いすバスケットボール大会（ビギナー向け）を開催。 ●大磯町社会福祉協議会主催「夏休み車いすバスケットボール体験教室」への講師派遣、大磯チャレンジフェスタでのブース出展 ●のぼり、スポーツ用看板を制作し、町内における事業の認知度向上を図る。	30,000	29.6	満額補助	－	30,000
					1,059,450	－	－	－	700,000